

フードドライブ活動2024

— 食品ロス削減への取組み —



キーワード

食品ロス削減・貧困対策・地域貢献・フードドライブ

〇取り組んだきっかけ

近年、SDGs(持続可能な開発目標)を念頭に置いた社会活動や消費行動に注目が集まる中、日本では年間523万トン以上*の食品ロスが発生し、大きな社会問題となっています。一方、コロナ禍を経て所得格差が拡大し、明日の食事にも事欠く人も増えている現状にあります。これらの課題解決に寄与すべく、本学でも2023年度より「フードドライブ活動」を開始しました。

*令和3年度推計値:農林水産省・環境省公表

フードドライブとは…

家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動です。

〇活動の目的

- (1) 本学の地域貢献・社会貢献の機会とする
- (2) 持続可能な未来に向けた行動を一人ひとりが考え実践する契機とする

〇具体的な内容

本学では、お中元・お歳暮で家庭に食料が余ることが想定される夏季と冬季の年2回、期間を定めて活動を実施しています。特定非営利活動法人フードバンクふじのくに等の定める、回収食品の条件・方針等に従い、食品の回収を行いました。

〇回収できるもの

- 賞味期限が2カ月以上先のもの
- 常温保存が出来て未開封のもの

代表例

- レトルト食品
- 缶詰
- カップ麺
- 即席みそ汁
- ふりかけ
- お菓子 等

× 回収できないもの

- 賞味期限が2カ月未満のもの
- 開封済みのもの
- 日本語表記が無いもの

代表例

- 生鮮食品
- 砂糖、塩
- 健康食品
- アルコール
- 冷凍・冷蔵のもの 等

夏季の活動において、静岡キャンパスでは、フードドライブ実施に関する広報(チラシ作成・食堂での事前アナウンス)から当日の回収作業まで、学友会・地域貢献センター学生スタッフ「Link」のメンバーが中心となって、約80品の食品を集めることができました。

また、浜松キャンパスでは、ボランティア活動を積極的に行う学生団体「ココスタ」が中心となって、校内放送や回収場所付近で呼びかけを行い、その結果、34品の食品が集まりました。

集まった食品は段ボールに詰めて、フードバンクふじのくにや浜松市社会福祉協議会北地区センターへ寄付しました。



〇期待される効果

活動に参加した学生スタッフからは、「この活動を通して、フードバンクのことを学べたので良かった」「今後も困っている人への支援を少しでも行っていきたいと感じた」などの感想が寄せられ、活動を通して、食品ロス削減の取組に対する学生の意識・関心を高めることができました。

本活動は今後も継続して実施し、学生・教職員の「地域貢献」の意識醸成を図っていききたいと思います。

担当者

地域貢献センター

連携先

特定非営利活動法人フードバンクふじのくに
浜松市社会福祉協議会 北地区センター